

働く日本のお父さん

佐藤山葉、松本佳吾

日本人は世界で最もよく働く国民と言われる。どこの国にも劣らずに真摯に仕事に取り組む。そしてその日本社会の中核を担うのは、勤勉なサラリーマンだ。家族を養うために、毎朝満員電車で揺られ、職場では汗水流して働き、くたくたになって帰宅する。

「働くお父さん」について、日動火災海上保険株式会社（現東京海上日動火災保険株式会社）元専務取締役の佐藤浩二氏(81)に話を聞いた。

800人以上の部下を抱えていた佐藤氏は、仕事は自分、家事は妻、と性別役割分業の形で生活してきた。「家族を不安にさせてはいけないから、一生懸命働く。家族には家を幸せな場所にしてもらいたかった」といい、家庭の方向性を一つにしてきた。職場でも家庭でも人情の厚い彼のモットーは「信頼、誠実」だ。「仕事で不安を抱えていると家族に不安を与える。だから、単純だけどこれ（信頼、誠実）を実行する。責任は体の中に入っている。これが基本」と佐藤氏は語る。

対して、60歳を超えた今でも、3人の子供を大学に出すべく建築会社に勤務し続ける佐藤光氏(62)は、家族を養い続けるプレッシャーについては「勿論あります」という。「民間企業に在籍していますから、業績が悪くなったときや、倒産の危機に瀕したときに強くそのプレッシャーを感じます」。景気の煽りを受けやすい建築の世界で働き続け、子供を育てあげた彼だからこその重みを感じられるコメントだった。

では、気が重いときでも休まず会社へ向かうその背中を押すものは、なんだろうか。それは、家族への責任感もあるが、「勤勉な日本人の性です」と彼は答えた。

「日本のお父さん」は世代に関わらず、自分が家庭のために働くべきだと意識している。どの世代も家族の幸せを願って今日も働く。

編集後記

わたしは労働問題に興味があり、中でも、家族を養わねばならない日本の父親という、身近な存在から今回は記事を書きました。日本の労働はジェンダー、ライフスタイルなどが絡み合っていて、さらには予想とは違う統計があり、当初わたしが考えていた記事とは少し違った方向性になりましたが、日本の働くお父さんへの敬意とエールを存分に伝えられたらと思います。

佐藤 山葉

今回は、家族のために懸命に働く日本のお父さんを伝えることを目的にこの記事を作成しました。私は自分の祖父に取材をしましたが、祖父がどんな思いを抱いて大企業を先導してきたかについて貴重な話が聞けて、大変嬉しく思います。今回は自分にとって 2 回目の記事作成でしたが、数多くの反省点があったので、これらを改善し、より良い記事を作っていきたいと思います。

松本 佳吾